

歌で抱きしめ、歌で命を渡す

さわともえ 沢知恵さん

歌手、コモエスタ&ともえ基金代表。東京芸術大学音楽学部楽理科在学中に歌手デビュー。第40回日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。ピアノ弾き語りパフォーマンスで、ハンセン病療養所、学校、被災地、少年院などで活動。



©Nobuko Oyabu 2016

ハンセン病療養所、被災地、少年院、学校など幅広いフィールドでコンサート活動を展開する歌手の沢知恵さん。活動の原動力と歌に込める思いについて伺いました。

「沢さんはハンセン病の国立療養所「大島青松園」（香川県高松市）で毎年コンサートを引っ掛けていますが、活動のきっかけを教えてください。」

「全国に13カ所ある国立ハンセン病療養所のうち、唯一離島にある大島青松園と私は生後6カ月の頃から関わりがあります。1971年、牧師の父が大学時代にボランティアとしてお世話になった大島青松園に、赤ちゃんの私を連れて行きました。島の皆さんは、赤ちゃんが来たので「見せて、見せて」と大変な騒ぎだったそうです。子どもを持つことを許されず、結婚の条件として断種や墮胎の手術を受けさせられた皆さんが、どんな眼差しで赤ちゃんの私を見つめたことでしょうか。」

「その後、らい予防法が廃止された1996年、25歳の時に、亡き父の足跡を訪ねてみたいと思い、20年ぶりに大島青松園を訪れました。私は「はじめまして」のつもりで行ったら、港に人がずらっと並んでいて、「知恵ちゃん大きくなったね。赤ちゃんの時にハイハイしていたのを覚えているよ。よう来たね」と涙で

「何年か一度『海』という歌も歌います。何人も人が故郷に戻ろうと泳ぎ、亡くなった大島の海。その海を見つめてきた皆さんの思いを重ねながら歌います。関わりが深まるにつれて、歌えるようになった歌がいくつかあります。最近では小柳ルミ子さんの『瀬戸の花嫁』を歌います。家族と別れ、故郷を離れる情景が、皆さんの経験と重なり、辛くて歌えなかったのですが、3年前に千葉県から岡山県に引っ越して、月に2、3回通うようになり、歌える気がしてきたんです。」

「皆さんとの関わりを深め、気持ちに寄り添うことで、歌える歌が増えていったんですね。」
「でも、関わってみて思うのは、当事者の気持ちは最終的には分からない、当事者にはなれないということ。関わりは深まりましたが、逆に限界を思い知らされます。近くにいなから傍観者でしかない。当事者の時に向かっています。その中で、これからもハンセン病のことは伝え続けていきたいですね。以前、私がNHKに出てハンセン病の話をしたら、元患者の方から「あなたは私の言いたいことを言ってくれている」と言葉をいただきました。当事者でなければ語れないこともありませんが、辛い経験を話すのはしんどいことでもあります。当事者でないからこそ語れることも含めて、近くにいる者として、関わった者として、私でよければ代わりにお伝えできたらと思います。」

「歌を歌う上で、大事にされていることはありますか。」
「私は人を抱きしめるつもりで歌っています。相手はどう受け取るか心配はありますが、それは自分がどう見られているのか考えるからちゅうちよするのだと思います。相手は傷つくかもしれないけれど、私も傷つく覚悟でやるから、どう思われてもいいと感じる時に歌えるようになります。」

「歌を歌う上で、大事にされていることはありますか。」
「それと、詩や言葉に対する姿勢として、私はリアリティを大事にします。嘘は歌わない。「詞」は歌っている間、その世界を演じていいのですが、「詩」というのは、作った詩人の最も純粋なところから言葉が出ている。その詩の中に全部自分を入れて、「この詩は私のことだ、私が言いたいことだ」と感じることで、私がきた時に、その詩を生きて歌える気がします。」

「胸の泉に」
塔和子詩／沢知恵曲
かかわらなければ
この愛しさを知らずにはなかつた
この親しさは湧かなかつた
この大らかな依存の安らいは得られなかつた
この甘い思いや
さびしい思いも知らなかつた
人はかかわることから生まれる
子は親とかわり
親は子とかわることによつて
恋も友情も
かかわることから始まって
かかわったが故に起る
幸や不幸を
積み重ねて大きくなり
くり返すことで磨かれ
そして人は
その間で思いを削り思いをふくらませ
生を綴る
ああ
何億の人がいようと
かかわらなければ路傍の人
私の胸の泉に
枯れ葉いちまいも
落としてほぐれない

「学校や少年院でもコンサートを行っています。少年院でコンサートをする「沢さんの歌で、凍っていた自分の心が溶けた」と手紙をもらうこともあります。子どもに「命を大切にしましょう」と言ってもなかなか伝わらないけれど、命のことを歌った歌を届けた時に、「僕は大丈夫なんだ」「生きていて良かった」と心で感じてもらえる気がします。」



塔和子さんと大島青松園のコンサート会場 ©Ryota Momoyama 2011

「今後の取り組みについてお聞かせください。」
「全国のハンセン病療養所が終わり



©Masaaki Hiraga 2012

「コンサートはどのような思いで始められたのですか。」
「実は当初、ハンセン病のことは詳しく知りませんでした。療養所に通い始めて慌てて学び、何でこんなにかつての衝撃を受けました。何か発信したいという思いに突き動かされ、2001年に初めてコンサートをしました。島外から来た健常者の方と元患者の皆さんが客席で一緒に座っている光景が美しく、感動で涙が溢れました。昔は、どこでも健常者や職員・元患者の方の席は分かれて

「どのよう歌を歌われているのですか。」
「最初のコンサートで、それぞれの心にある故郷への思いを込めて『故郷』を歌いました。3番目の歌詞に「志を果たして、いつの日にか帰ら

「ご自身の経験や思いを詩と重ね合わせて歌にするのですね。沢さんが特に好きな詩はありますか。」

「私が尊敬する人で、塔和子さんという大島青松園が生んだ詩人がいます。彼女は愛媛県から13歳で強制隔離され、約1、000編の詩を発表して、4年前に83歳で亡くなりました。以前、谷川俊太郎さんと対談した時に、「優れた詩は、弱い人の声なき声を純粹に拾い上げてうたっている、全てが人権に通じる詩なんだ」と仰っていました。彼女の詩は彼女の命そのもの。代表作の「胸の泉に」という詩は、最後に「何億の人がいようと／かかわらなければ路傍の人／私の胸の泉に／枯れ葉いちまいも／落としてはほぐれない」とあります。関わりを絶たれた島で生きた詩人が、1、000編の詩で言おうとしていることは、枯れ葉いちまいの関わりを求めての呻きです。彼女の詩は普遍的にずっと残る詩であると感じ、あえてハンセン病という説明をせずに、この詩を歌うようになりました。」

ケアハウスまきば園
行田市白川戸275
☎048-555-2202
笑顔が自慢のまきば園で、安心して生活を送りませんか？
ご夫婦でのご入居もお待ちしております！

高齢者総合ケア施設
まきば園
☎048-555-2202 行田市白川戸275

元気な挨拶と明るい笑顔！
鴻巣まきば園
☎048-547-2202 鴻巣市前砂517-1

全室個室・ユニットケアの新型特養
岩槻まきば園
☎048-797-2202 さいたま市岩槻区横根1375

開放感あふれる鮮やかなケア施設
武里まきば園
☎048-739-2202 春日部市武里中野705

24時間365日お客様の在宅生活を支援続けます！
平成29年10月開設予定
訪問看護ふくしのまち熊谷

看護職員募集中!!
勤務地「熊谷市肥塚G41-1」
JR線「熊谷」駅 車で10分(車通勤可) ... Our Mission ...
地域の福祉や街づくり、人づくりに貢献します。

株式会社 福祉の街
☎048-645-2943
http://www.youisn.co.jp
さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル4F
ご見学随時受付中!!お気軽にお問い合わせ下さい。